

V. 特記事項

1. 文化創造に寄与する美術学部の取り組み

<高校生のためのデッサンセミナー>

本学の特色ある教育資源の社会への還元として、毎年高校生を対象としたデッサンセミナーを開催している。美術の面白さ・楽しさを伝えることを目的に、「美術基礎のためのデッサンコース」と「マンガ・イラストのためのデッサンコース」の2つのコースを設けている。例年、夏期は連続4日間、春期は連続2日間、集中的に実施している。春期のセミナーは、宮城県教育委員会との高大連携事業に位置付けられている。令和元（2019）年度は、合計175名が参加した。セミナー終了時には必ずアンケートを実施し、常時内容の見直しを行い改善に努めている。

<美術学部学科内コンクール>

当コンクールは、令和元（2019）年度には第46回を迎え、合計35人、38点の応募があった。作品は、ジャンルを問わず、原則として授業外の制作とし、1～4年次が任意に参加する。単位の取得には直接は結びつかないが、例年多くの学生が休業期間などを利用し、意欲的な作品を制作し応募している。学生の自由度を尊重することで、自主性および主体性を育むことに主眼を置いている。

審査は、学部の専任教員の他、県内のギャラリー関係者が行い、最優秀賞や優秀賞をはじめ、各ギャラリー賞が設けられている。全ての応募作品は大学祭で展示される他、入賞作品については本学アトリエおよび Gallery CORE で展示し、一般に公開している。表彰式では、各ギャラリー関係者から具体的な講評をもらい、当該ギャラリーでの発表の機会が与えられる学生もいる。

<TSB アートコンペティション>

若い世代の美術に係る活動の振興や人材育成を目途に、高校生を対象にした美術コンクールを2013年より開催している。県内外の多くの高校生から意欲的な作品が寄せられている。令和元（2019）年度は「自分」をテーマとしたB2・F15号サイズの平面作品（表現材料自由）を募集し、合計13校、107人の応募があった。作品の展示および表彰式は、仙台中心地の文化施設である「せんだいメディアテーク」で開催されている。参加者の中には美術系大学への進学、実社会で活発な美術活動を行う者が多く、美術に関わる人材の育成に一定の役割を果たしている。

2. 服飾文化の伝統の継承

<ファッションショー>

本学では、昭和60（1985）年度から併設する三島学園女子短期大学（現 東北生活文化大学短期大学部）においてクラス対抗ファッションショーとして開催されていたが、平成12（2000）年度から大学祭のメイン企画として、学生有志により自主的に企画、運営されるようになった。衣装デザイン、縫製、モデル、舞台構成等を家政学科服飾文化専攻の学生が中心となり、大学・短大の垣根を越えて全学生が自由に参加できるのが特徴である。さらに、平成21（2009）年より外部施設での公演も行われており、令和2（2020）年2月14日に、エルパーク仙台において2回のショーが開催された。